



## pickup

### 将来につながるICT教育

子どもたちの学びの中で、ICT機器の活用が広がっています。

現在、本校では、「ICTを有効活用した授業づくり～学びを支え広げるICTやATの視点を取り入れる授業づくり～」をテーマに、3カ年計画のもと研究活動が進められており、今年はその2年目にあたります。

一人ひとりの学びを支え、可能性を広げるための工夫が、日々の授業の中でも積み重ねられています。

東京都立特別支援学校の高等部では、ICT機器購入費の補助制度があります。

この制度を有効に活用するためにも、小学部・中学部のうちから、お子さんに合ったICT機器や支援ツールに触れておくことが大切です。

ICTは、単に「便利な機械」ではありません。

大切なのは、その子が「伝えられる」「選べる」「参加できる」、「機会」が広がることです。

タッチ操作やスイッチ、視線入力など、さまざまな方法があります。

「難しいかも」と決めつけるのではなく、その子に合った方法を周囲で一緒に見つけていくことが大切です。

学校と家庭が連携しながら、“その子に合った方法”を少しずつ見つけていくことが、将来につながります。

無理に大きなことをしなくても、連絡帳で様子を知ったり、気になったことを聞いてみたりするだけでも大切な一歩です。

またPTAでは、今年度も東京都への要望活動において、ICT教育のさらなる充実とともに、

学校生活にとどまらず、卒業後の生活の中でもICTが活用されていくことの大切さを

今年も伝えてまいります✨



## 予算要望活動報告

今年度も教育庁を担当し、昨年度に続き

「ICT機器及び生成AIを活用した教育の充実とDX化の推進」、「共生社会の実現に向けた副籍交流と学校間交流の推進」に加え、今年度は新たに「キャリアパスポートを活用したキャリア教育の更なる推進」という項目も担当しています。要望書を作成・提出して終わりではなく、それぞれの要望について原稿を作成し、その後、各部局や都議会政党とのヒアリングに臨みます。

ICTに関する要望においても、我が子の姿も重ねながら考えています。

重心児の娘に対して、当初は正直なところ、「この子にICTが必要なのだろうか」と感じていた自分もいました。

しかし、繰り返し使う中で変わっていったのは、娘だけでなく、私自身の意識でもありました。

ICTは特別なものではなく、その子の可能性を引き出す一つの手段であること、そして生活の中で生きていく力につながっていくことを実感しています。昨年度のヒアリングでお伝えした内容については、以下のリンクにまとめています。

よろしければ、のぞいてみてください😊

【ICT教育】 [https://drive.google.com/file/d/1ep3eKKGwZRY7hPREHXajpUO\\_ON5OzjxS/view?usp=drivesdk](https://drive.google.com/file/d/1ep3eKKGwZRY7hPREHXajpUO_ON5OzjxS/view?usp=drivesdk)

【副籍交流】 <https://drive.google.com/file/d/18oU9WzBoyxnAAfz1mv0pMJtYSAaVkWe9/view?usp=drivesdk>

## 編集後記

今回は、ICT教育に関するテーマを取り上げました。

昨年度末、本校学校運営協議会の評議委員である三室先生にお声がけいただき、生活介護におけるICT等を活用した厚生労働省のモデル事業の報告会に参加しました。（三室先生は、光明学園の元校長先生で、現在は社会福祉法人あけぼの福祉会の理事長をされています。）

このモデル事業は、東京都では府中市「あけぼの福祉会ワークセンターこむたん」、小平市「あいの樹」で実施されていました。残念ながら、本モデル事業は今年度で終了予定とのことですが、

生活介護を「新たな学びの場」として捉え、卒業後も切れ目なく学びが続いていく環境づくりの大切さを知る機会となりました。学校での学びがその先の生活につながっていくこと、そしてICTがその一助となり得ることを、改めて感じ今回のテーマとしました。今年も気まぐれに情報発信をしていきます◎